

第2回千代田区まちづくりプラットフォームのあり方検討会 議事要旨（素案）

| | |
|----|---|
| 日時 | 令和4年12月22日（木）16時～18時 |
| 会場 | 区役所4階会議室A・B |
| 出席 | 16名（1名欠席） |
| 議題 | 千代田区まちづくりプラットフォームのあり方について （1）第1回検討会での意見対応について （2）千代田区まちづくりプラットフォームのあり方骨子（案）について |

議事要旨

● 開会

資料説明（事務局より）

- （1）第1回検討会での意見対応について
- （2）千代田区まちづくりプラットフォームのあり方骨子（案）について

- 資料1に基づき、第1回検討会での委員指摘を受けての対応等が説明された。
- 資料2に基づき、千代田区における合意形成のあり方、千代田区まちづくりプラットフォームの全体像、機能等が説明された。

意見概要

- （1）第1回検討会での意見対応について
- （2）千代田区まちづくりプラットフォームのあり方骨子（案）について

- 合意形成の説明は、着地点が見つかるかわからない中でも、100%の合意を理想としてより良い合意形成に向けて対話を重ねてがんばっていく、というニュアンスが良い。
- 「千代田区におけるまちづくりの合意形成のあり方」の④は、「納得・許容の形成」ではなく、「信頼の形成」とした方が良いと感じる。信頼を高めた結果として、納得を得られるという書き方が良いのではないか。
- 着地点を見つけることよりも、対話を繰り返すことに重きを置くべきである。途中のプロセスが抜けており、納得や許容の前には信頼がある。
- 趣旨は同じでも、言葉の選び方によってイメージが変わる。「納得」や「許容」にはネガティブなイメージがある。
- ややテクニカルな話を想起させる構成になっている。合意形成のプロセスには、まずは信頼形成が必要である。
- 合意形成はまちづくりプラットフォームの目的の一つではあると思われるが、合意形成自体は、事業に係る情報や進め方をオープンにして、住民と共有して共に考えながら進めていくプロセスのあり方と密接に関係すると思うため、まちづくりプロセスにおける区民等の参画やその具体的な方法等にフォーカスすることにより、千代田区らしさを生むまちづくりになるとともに合意形成に寄与する形となるのではないか。
- 公共施設整備などの区が主体となる事業では、初期段階から現在区が検討をしているまちづくりプ

プラットフォームを活用することは、事業主体が同一である点から活用されるイメージをある程度持てるが、民間主体の事業のプロセスにおいてはまちづくりプラットフォームをどのように位置付けるのか今後整理をしていく必要があるだろう。

- 日本社会の大多数は無関心層であり、事業者側としては地元からの反対意見は少ない方がいいと思われるかもしれない。しかし、毎年人口の1割が入れ替わる千代田区にとっては、地域に関心を持ってもらい、1人でも多くの区民から意見をいただいて参画してもらうことが重要である。
- 資料中では「多様な関係者」と濁しているが、前回の意見にもあったようにステークホルダーは明確化するべきである。対象とする事業やそのステークホルダーを明確に示すと、具体的にイメージしやすくなる。
- 今回の議論は抽象度が高いため、地域への応用や具体例を示した方が良い。
- 区は、合意形成に関する問題に法則性を見出して、こじれた件をまとめて処理する入れ物を作ろうとしているが、それは無理な話である。損得の問題と感情・趣味の問題の両方について「合意」という言葉を使っているが、今は法律の対象範囲外での話し合いについての議論である。まちづくりプラットフォームは、具体的な被害や損についてではなく「はっきりした答えは出ないが、このまちではこうしよう」という合意形成を目指す形が良いのではないか。
- 合意形成によって全てが解決できるものではないと認識してほしい。法的には、合意形成したからといって、再開発を阻止できるわけではない。まちづくりプラットフォームが機能するには、合意形成がなぜ必要なのか、合意形成によって何ができるのかといったことを明確にする必要がある。その一方で、100%の合意には至らずとも、まちを変えていけることもある。合意形成の定義と課題の間に、合意形成が何をもたらすか、千代田区で合意形成を行うとどうなるかを明示する必要がある。
- 合意形成を目指す途中で何がもたらされるかについて考えることが重要である。
- この検討会での話し合いそのものがとても良いことである。開かれたイメージを生み、千代田区のブランド力も上がるだろう。「合意したからもう何も言うな」ということではなく、合意形成のプロセスを通じて直接的・間接的な関係者が良い気分になり、千代田区は良いまちであると信頼してもらうことが大事である。先日前橋で開催したイベントでは、細かいルールを作るときりがないため、周りも自分もハッピーになることを目的として自由に動くボランティアを募集した。このルールだけでも、イベントは楽しく終わった。この審議会の話をもっと最初にもらったときは区のアリバイ作りかと疑ったが、自分たちが何をしたいかについて柔軟なイメージを持って、千代田区なりのカルチャーを作る方向へ進んでいただきたい。
- 合意形成によって法的にもたらされるものの代表的なものが地区計画の策定である。地区計画により規制や事業も可能になる。また、再開発は地権者等の合意がなければ、許可されない。このような固い話から、他の委員の意見にあったような柔らかい話までまちづくりプラットフォームによってできることの可能性を、整理して始めに示す必要がある。
- マンションの住民は増えているが、町内会の加入者は減っている。来年は神田祭があるが、神輿の担ぎ手が足りず、参加できない町会も出てきている。盆踊りも、踊り手は増えたが運営する人間がいない。昔からの行事を今後どう続けるか、みんなで考えている。
- 再開発だけではなく、このような地域にとって重要なテーマもまちづくりプラットフォームで取り上げていくべきではないか。
- まちづくりプラットフォームの対象は規模が大きい事業だけなのか。地域の説明会では、もう事業

を行うことが前提となっている印象があり、そもそもの賛成・反対という立場を表明する場がない。まちづくりプラットフォームは大規模な事業からまちの小さな揉め事まで、全てに対して機能できるのか。どこまでを合意形成の場とするか、範囲を明確にしてほしい。

- 抽象論から入っているので、区民に理解してもらうためのアプローチとして、イメージしやすいところから第2章に入っていただきたい。まちづくりプラットフォームの対象については、どこまでをイメージしているか。
- 千代田区にはさまざまなステークホルダーがいるが、それらの登場人物の顔が不明瞭であるため、具体的に示してほしい。
- エリアプラットフォームがよくわからないものであるため、何を対象としていてどのような案件に対応するのかといった具体的な事例等が必要となるのではないか。
- 住民と言っても地権者や近隣住民などいろいろいるので、細かく想定して議論するべきである。
- 情報共有について、どんな手法・手段で発信するか明確にすることが大切である。
- 以前の広報は新聞と一緒に配られていたが、最近は全戸に配布されており、情報共有ができていと感じる。手渡しやデジタル技術の活用等により、全員に情報を共有することが大切である。
- 情報共有については、具体的にイメージできるよう書き方に工夫が必要である。
- 町会に参加している人はみんなおおらかで良い人であり、そのような千代田区の良さが伝わるようなものになると良い。各自の意見はバラバラであっても、根っこには信頼関係がある。
- 合意形成のプロセスがもたらすものの一つとして、千代田区の良さが伝わることを挙げられると考える。
- 新しい住民は町会に参加しないためよくわからないが、日ごろの付き合いがある人々については、先ほど述べたことが実態としてある。
- 千代田区の実態について今はデータしか載せていないが、住民目線から書いても良いのではないか。
- 施設を作る際に実施したアンケートに反対意見を書いた人は、ほとんどが町会に加入していない人であった。このような人達に町会等についての正しい情報が届くようになると良い。
- マンション住民等をどうやって巻き込んでいくかが課題である。マンションの管理組合を通じた参加の可能性を考えることも重要。
- エリアプラットフォームを作してほしいという区の見解があるのか、書き方が杓子定規な印象を受ける。予定調和的な合意形成を目指すものではないため、多くの人の参画、信頼の形成、気持ち楽になる、開かれた千代田区のイメージの形成といった、合意形成というプロセスによってもたらされるもののほか、ステークホルダー等について明記してほしい。抽象的な概念から始めるより、具体的なケースを出す方がわかりやすいかもしれないため、構成を考えていただきたい。
- この検討会においても、合意形成の難しさを感じるが、ぜひ皆さんから忌憚のない意見をいただきたい。
- 意見や関係者は多様と言う割に、空間に対するプランニングを提案する側とされる側の構図が固まっているため、手続についての細かい議論になってしまう。「開かれることでブランド力を上げる」とのご意見を踏まえ、例えば公開コンペを取り入れることは考えられないか。公共空間利用についてコンペで決定することは合意形成に含まれるのかといったことや、議会とまちづくりプラットフォームの関係についても検討すべきではないか。
- 提案される側となっている住民からも、代替案を提案できる仕組みを作るべきではないか。
- まちづくりプラットフォームの役割について、どこかで線引きが必要となるが、地域においては、

祭りなどの日常的な課題についても議論する場を作る方が重要ではないか。

- この検討会は、これまで個別に地域のまちづくりの構想について話し合ってきた各地域の協議会の組織をリニューアルするために立ち上げられた。
- 千代田区は人口が6万人台であるが、昼間人口は90万人、交流人口は200万人である。区民は人口100万人の都市の利便性を求めると同時に、6万人の都市の静謐さも求めているという矛盾があり、千代田区の合意形成の課題となっている。居住人口は少ないが、社会サービスは分厚いことも千代田区の特徴として明らかにする必要があるのではないか。
- 千代田区の合意形成において、改善や変化を求める人は多くいるにも関わらず、極端な賛成・反対の意見によって何も変化しないために一番損をしているという状況を、どのように外部に向けて発信するかが課題である。
- まちづくりの対象を明確にするとともに、そもそもの検討会立ち上げの動機もきちんと明記していただきたい。極端な賛成意見と反対意見が膠着しているとき、コミュニティに参加していない人々の声を拾いたいという点も本検討会の背景にある。
- 極端な賛成と反対の声があり、その中間の人々の間では一定の方向性が見えているにも関わらず事態が進展しないという、区の実態を理解していただきたい。千代田区における再開発では、大方の議論はこのような形で膠着していると思う。うまく説明できるように事務局にお願いしたい。
- 現況についてイメージしにくいのが、事例を明確に示していただければ検討会で解決する手立てを見出せる可能性がある。都市計画に限って議論をしているから、そのような状況になっているのかもしれない。コミュニティ形成等の初期段階かつ基礎的なところから取り組むことで解決する可能性もあると感じた。それらを検討するためにも、情報提供をしていただきたい。
- 既存の団体とは、ウォークアブルまちづくりデザイン資料編 20 ページのエリアマネジメント団体・まちづくり団体の一覧に載っているものか。各協議会で起こっている問題や組織の構成等について情報をいただくと、具体的に考えられるのかもしれない。
- 「合意形成」や「合意形成のあり方」など、大上段に構えているような印象を受ける。この検討会が開かれた背景や千代田区の根底にある課題、合意形成というプロセスがもたらすことなどを整理して記載するべきではないか。抽象論からいきなりテクニカルな話になっているので、その間で、信頼の形成の話や押さえるべきポイント等をかみ砕いて説明することが必要である。
- エリアプラットフォームのイメージをつかみにくいため、第3章で示しても良いのではないか。エリアプラットフォームを図で表すとすれば、直線ではなく螺旋や振り子のようなイメージではないかと思う。螺旋の中にも事業としての帰結やジャンプアップがある。
- 地域別協議会は民間の団体という認識で間違いないか。
- 地域別協議会は、区がガイドラインを作成して事務局を運営している。メンバーは商店街や町会やデベロッパー等であり、学識経験者の方等を座長としている。
- 図や説明を見ると、まちづくりプラットフォームがサブでエリアプラットフォームがメインであると感じたが、もう少しエリアプラットフォームに寄り添った直接的な仕組みが必要ではないか。エリアプラットフォームの負担が大きいように思える。
- 「プラットフォーム」という言葉が二つあるために難しく感じるのではないか。まちづくりプラットフォームが支援して、具体的なことに関してはエリアプラットフォームにがんばってもらうということである。
- 第1回の検討会から合意形成のあり方についての話が続けていたが、話が進む中でこの会のテーマ

であるまちづくりプラットフォームについての話ができるようになって良かった。これならマンション住民等も興味を持つのではないか。興味を持ってもらうには、おもしろそうと思ってもらうことが必要である。普段まちづくりについて騒がない人達によって、まちづくりをおもしろそうに見せられるようになると良い。

- エリアプラットフォームとは何かを示し、それを支援するものとしてまちづくりプラットフォームを示す構成が良い。まずはエリアプラットフォームがしっかりしないと課題も出てこないので支えようがない。
- まちづくりプラットフォームの全体像の説明の前に、エリアプラットフォームについて説明すべきである。
- 誰が実行するか見えないと他人事にしかならないため、どういった人がどういう役割を担うか明確に示す必要がある。
- 8ページの図をもう少しおもしろくしてほしい。
- エリアでわけられないエリアプラットフォームもある。地域全体の課題解決として場所がたまたま一つのエリア内に決まっただけで、意見の出所は区全体であることもある。子育てやビジネスなど、区全体で考えるテーマもある。合意形成の時だけでなく、普段から区民の声を集め、その解決策としてまちづくりを行うことで、理解が進むスピードが早まるのではないか。
- テーマ型のプラットフォームがあっても良いのではないか。やる気のある人が何人かいるテーマであれば、テーマ別のプラットフォームも作りやすい。やはりおもしろくないと参加し難いと思うが、「専門家委員会」という名称は堅苦しい印象がある。
- 「まちづくりコミュニケーター」は、住民に寄り添い、行政側の意見の解釈を住民に伝える存在ではないか。地域の課題について、行政とつないだりエリアを越えて共有したりして話し合いを行い、お互い助け合う組織ができて良いのではないか。
- 資料構成はエリアプラットフォームを軸とし、それを支える仕組みとしてまちづくりプラットフォームを示すと良いと考える。
- まちづくりプラットフォームは仕組みであるため、他の分野でも活用できるものではないか。しかし、この対象を広げるのは大変である。
- このプロセスを経ていろいろな声を得られた結果として良識的な選択がなされるというメカニズムが働くということが共通認識となり、千代田区らしいまちづくりとしてブランドになるのではないか。極端な意見に振り回されず、判断が見える化して提示することが合意形成の本質であると考え。最終的にまちづくりを決定するのは都市計画審議会等であるが、そこでプロセスを提示して判断してもらうための材料を作ることがまちづくりプラットフォームの成果ではないか。
- 地域が大事にしてきたことを明示・共有して、それを活かす対話の場を構築してはどうか。
- 受け身の姿勢が固定化されないように、納得・許容できる区民ではなく、自ら提案・行動できる区民の像を共有することが必要である。
- 4章のタイトルが受け身的な印象があるため、クリエイティブな区民像を表すタイトルをつけていただいてはどうか。
- この検討会自体も受け身なものになっているので、もっと創造的な場であっても良いのではないか。
- 本日後半の皆さんの議論をお聞きする中で、区民を「お客さん」ではなく「パートナー・仲間」と捉え、区と区民が一緒に考えていくスタンス・意識を持つことが共通する大事なポイントになるのではないか。そのような区としての新たなスタンス・試みについて、文章レベルでも伝わるような

表現に落とし込んでいけると良い。

- 言葉遣いに区の姿勢が表れているため、今日の意見を踏まえて丁寧な見直しをお願いしたい。
- 人を集めるのであれば、神輿を担ぎたい人を集めると新旧の住民が集まるのではないか。
- 会社が移転するとき、地域に歓迎されるか心配していたが、「お神輿に参加してくれますか?」「もちろんします!」という会話から全てが始まった。外部に対して訴える言葉が内部の人間にも効果があるのではないか。外部から見られていることを意識することで、開かれた地域になる。
- 地域コミュニティ活動への参加の最初の入り方に関する要素も入れていただきたい。

【第2回検討会における議論の整理】

- 第4章のタイトルが「受け身な千代田区民」という印象を与えるため、創造的な千代田区民のイメージが伝わるように言葉遣いを工夫していただきたい。
- 全体的にやや受け身な姿勢なので、千代田区民の像を想定し直し、目次等の言葉遣いを見直していただきたい。
- 検討会が立ち上がった背景や、合意形成のプロセスがもたらすものについての記述も入れていただきたい。
- 本来はエリアプラットフォームが主役であるため、丁寧に解説し、各地域で参加しやすくする素地や地域への入り方を考えていただきたい。

その他

- 資料4に基づき、検討のスケジュールが説明された。

閉会